

思春期の性行動

北村 邦夫

Summary

最近の若者たちの性行動には2極化が起こっている。しかし、活発な性行動をとる若者が計画していない妊娠の回避や感染症予防に熱心かという点必ずしもそうとはいえない。「パートナーとのコミュニケーションを重視し、仮に性交が行われるのであれば、女性が主体的に使える避妊法を最優先し感染症予防にはコンドームを」と繰り返し訴えるが、彼らに響いているとはいいがたい。本稿では、各種調査結果をもとに、思春期の性行動の実態を明らかにするとともに、彼らに推奨される避妊法などについて言及したい。

Key words

思春期
性意識・性行動
避妊
妊娠・中絶
緊急避妊

現代思春期の性意識・性行動

東京都の性教育研究グループが行った調査から「高校生の性交に対する考え方」をみると¹⁾、「しないほうがよい」と「結婚するまでは、しないほうがよい」とを加えた否定的な意見は、高校1～3年生の順に、男子は17.9%、15.1%、17.3%、女子は24.2%、23.5%、21.7%で、全学年で女子が男子を上回っている。これを高校3年生の男女について、調査年である2002年、2005年、2008年、2014年の経時的な推移をみると、否定的な意見は男子では8.7%、9.9%、16.2%、17.3%、女子では8.2%、5.0%、12.9%、21.7%という結果で、男女ともに2014年には増加している。

一方、「愛情が深まれば」、「納得すれば」、「避妊すれば」など肯定的な意見は、男子は81.6%、80.1%、58.1%、60.5%、女子は85.5%、84.6%、52.8%、45.0%で総じて減少傾向にあり、「考えたことがない」が増加している。肯定的な意見が減少しているとはいえ、「婚前性交」などという言葉はもはや死語になって久しい。

図1は中学生・高校生・大学生の性交経験率の推移をみたものであるが²⁾、性交について肯定的な意見が低下傾向にある高校生の性交経験率を追うと、男子では1999年の26.5%、2005年の26.6%あたりをピークに、その後、2011年には14.6%、2017年には13.6%と明らかに低下している。一方、女子についても、2005年に30.3%となって男子の経験率を超えたものの、2011年には22.5%、2017年に19.3%となっている。このように、従来

Kunio Kitamura

一般社団法人日本家族計画協会理事長